SOUND TO THE FUTURE

“シンフォニー”は第2楽章へ—
ホールの歴史と未来を語るスペシャル座談会

30余年の時を経て、新たな船出を迎えようとしている「ザ・シンフォニーホール」。
継続を決定した滋慶学園グループの総長でありながら、
東京フィルハーモニー交響楽団の理事も務めるなど
「文化人」としての一面も持つ浮舟邦彦氏と、
朝日放送アナウンサーとして、数々のクラシックシーンに立ち会っている
“クラシック通”堀江政生氏を中心に、
同ホールの経営・運営に携わる田仲豊徳氏、
プロの音楽家、そしてホールの音楽総監督を務める喜多弘悦氏を交え、
ザ・シンフォニーホールとホールを取り巻く環境、
そして今後について、それぞれの視点で語る。

Hiroyoshi KITA

Toyonori TANAKA

Masao HORIE

Kunihiko UKIFUNE

原点は、ファンとして抱いた憧れ。

浮舟（以下U） 堀江さんは朝日放送では「クラシック通」として知られていて、この間、ザ・シンフォニーホールのコンサートでも司会をされていましたよね。

堀江（以下H） ええ、開館30周年の時に。

U 私も1980年代からよく、このホールのジルベスター・コンサートに行っていました。当時、ホール北側にあったホテルプラザに泊まって、コンサートを聴くのが定番でしたね。

H 僕も実は2000年前後に3回ほどジルベスター・コンサートの司会をさせていただいたんですよ。

U じゃあ、もしかしたら、その頃にお会いしているかもしれませんね（笑）。実は、若い時からクラシックの世界と縁があったんですよ。大学では音楽研究会みたいなことをやって、トランペットもずいぶん持って楽しんでいましたね。その後、新星日本交響楽団（2001年に東京フィルハーモニー交響楽団と合併）の理事をお引き受けしてからは、もう20年になるし、今回ほご縁がめぐってザ・シンフォニーホールが場所でこられた文化や伝統を継続する役割を担おうと決めたんです。

「想い」を継承し、「出会い」を創造する。

H このホールを引き継ごうと思われたのはなぜですか？

U やはり、大阪人としてこのホールはなくてはならないものだという思いがありました。来年2月にニューヨーク・フィルハーモニックが公演しますが、「残響2秒」という素晴らしい環境を継続させて、“大阪で演奏するならザ・シンフォニーホール”と逆指名していただけるようなホールを残していきたいと思ったんです。

H 若い頃からホールのオーナーになるというイメージはお持ちでしたか？

U 全くないですよ。ただこのお話しを聞いたときに、ホールを継続することで社会のお役に立てると思ってお引き受けしました。学校（滋慶学園）も同じです。“大きくするぞ”という思いだけではなく、「こうありたい」という理念に沿って忠実に事業を進めて来ているのです。

田仲（以下T） 私も運営していく立場として、いままでのファンの方々が持たれているホールに対する想いを継承していくことが仕事のひとつだと思っています。また、新たなクラシックファンの拡大も図っていきたいですね。実は私自身、これまでクラシックとはまったくの無縁だったんです。

H そうなんですか？

T そうなんです。ホールを引き継ぐと決まった時に初めて聴いて、生音の素晴らしさを直に感じました。60数年間、ホールに行ったこともなければ、クラシックをじっくり聴いたこともなかった私が、聴いてみたら「ええやんか！」となったように、同じ思いを抱かれる方もまだまだたくさんいらっしゃると思うんですよ。

H そうですね。クラシック音楽の素晴らしさにまだ出会えていない人たちは多いかもしれないですよね。

T そういう方たちにクラシック音楽との出会いの場を提供することで、ファンになっていただければと思うんです。新たなクラシックファンを増やすことも、ザ・シンフォニーホールにとって、重要な役割のひとつですから。

舞台裏が物語るホールの歴史。

H そういったホールの継続・ファンの拡大のために新たなアイデアや取り組みは考えていらっしゃいますか？

U いまはさまざまなアイデアを出しあい、具現化しているところです。まずは、ファンの方にホールが積み上げてきた30年の歴史を感じていただくことが必要だと思っています。そのひとつとして、演奏者がバックヤードに貼っていったステッカーを見ていただく機会を作ろうと考えています。あれは素晴らしい歴史を感じますし、お客様にも楽しんでいただけると思うんです。

H 良いですね！ 重みを感じることが出来ますからね。

喜多（以下K） 演奏者にとってあのステッカーは、「この人たちと同じ舞台に立つんだ」という気持ちになれるものなんですよ。でも、これだけは、お客様にもホールの歴史を共有していただきたいと思ったんです。スティカーや（楽屋に置かれている）ヘルベルト・フォン・カラヤンが座った椅子などを見ていただいて、ファンの方に「カラヤンをはじめ、多くの著名なアーティストがこのホールで演奏したんだ！」と、思い返していただくのは大切なことですよね。

H 僕も中に入って、多くのアーティストと話をしていると、こんなに素晴らしい人たちが演奏しているんだと感じますし、それを、なるべく大勢の人に知ってもらえたら楽しいだろうなと思います。

コンサートの余韻も醍醐味のひとつに。

U ホール内で言うと、ホワイエのリニューアルを考えています。窓から見える公園の緑は素晴らしいじゃないですか！ そこで公演後に、おいしいシャンパンやワインで「思うきながら、お客様に余韻を楽しんでもらいたいんです。

H いいですね！ 演奏した人にも入っていただいたら、そこで交流が生まれますし、何だかワクワクします。

U 我々もワクワクしながら考えていますよ（笑）。

右ページ写真をよりじっくり Close Up

浮舟 邦彦
ザ・シンフォニーホール 監修
滋慶学園グループの創立者で滋慶学園グループ 総長。1974年、社団法人新映会の創立に参画。82年、大阪医療技術学園専門学校を設立。83年に滋慶学園事業に改組。以降、全国に医療教育を通じて社会に貢献するというミッションを掲げて滋慶学園グループを展開。その教育に対する姿勢と活動が認められ、95年には米ノースカロライナ州立大学より国際教育学名誉博士号、2009年には中国遼寧中医薬大学より教育学名誉博士号を授与されている。また、2005年には社会福祉法人滋慶福祉教育会の会長を務められ、社会福祉法人日本ホワイトハウス理事、財団法人日本医療保険事業振興財団理事にそれぞれ就任し社会貢献活動を継続している。2011年には東京フィルハーモニー交響楽団の理事を務め音楽クラシック音楽業界にも力を注いでいる。

堀江 政生
朝日放送 アナウンサー
明治学院大学卒業後、朝日放送入社。報道局長のキャスターを経験。朝日新聞社に出向、森喜朗、橋本龍太郎両首相のキャスターを務める。報道番組やナウナウ・ヒューマン・ドキュメンタリーなどを担当するかたわら、音楽がバックボーンにあるABCラジオ番組でも数々のクラシック音楽のコーナーを担当。クラシック音楽歴は40年にわたっている。1981年からABCラジオ音楽番組「堀江政生のザ・シンフォニーホールアワー」のメインパーソナリティを務めている。

田仲 豊徳
株式会社ザ・シンフォニーホール
代表取締役社長
株式会社 阪急 代表取締役社長
株式会社 ブレーンズネクスト 代表取締役会長
株式会社 FMちかび 代表取締役社長
株式会社 阪急阪神 代表執行役社長
1974年、阪急電鉄に入社。以来、営業畑を歩む。2004年、阪急電鉄 取締役 鉄道事業本部 副本部長 兼 鉄道運輸部長。2006年、阪急電鉄 常務取締役 鉄道事業本部 副本部長 兼 鉄道運輸部長。2008年、阪急電鉄 常務取締役 鉄道事業本部 副本部長 兼 鉄道運輸部長 兼 鉄道企画部長。2009年、阪急電鉄 常務取締役 鉄道事業本部長。2010年、阪急電鉄 専務取締役 鉄道事業本部長。2011年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長。2012年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長 兼 鉄道企画部長。2013年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長。2014年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長 兼 鉄道企画部長。2015年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長。2016年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長 兼 鉄道企画部長。2017年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長。2018年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長 兼 鉄道企画部長。2019年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長。2020年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長 兼 鉄道企画部長。2021年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長。2022年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長 兼 鉄道企画部長。2023年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長。2024年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長 兼 鉄道企画部長。2025年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長。2026年、阪急電鉄 代表取締役 専務取締役 鉄道事業本部長 兼 鉄道企画部長。

喜多 弘悦
株式会社ザ・シンフォニーホール
阪神淡路大震災チャリティー・ジョイント音楽祭総監督
ジュリード音楽院大学 大学院 卒業
大阪ウィーン・フィルハーモニック音楽学校
国際学園ヘルシンキ音楽院 副校長
COM. ホール 音楽監督
株式会社 阪急 メインコンダクター＆アーティスティックアドバイザー
1993年ジュリード音楽院を首席卒業後帰国、ソロ・オーケストラ、アンサンブルのプレーヤーとして活躍する傍ら音楽大学の教育に携わる。98年に大阪ウィーン・フィルハーモニック専門学校教育機関に就任、2000年、副校長に就任し、COM. ホールをはじめ各種ホールにおいて音楽監督に就任、現在に至る。また阪急交響楽団においても、音楽監督に就任、現在に至る。

新たな価値を奏で続けていく。

K あくまでも、いままで脈々とやってこられた通常のクラシックコンサートと、それを好きで集まってくださる会員の方を大切にしていくというビジョンは変わりません。そのうえで、お子様をはじめ、20代や30代の若い方にも遊びに来ていただけるホールにするための新しい仕掛けも考えているところです。

U そのひとつとして、さまざまな時間帯でホールを使えるようにしたいと思っています。夏休みなら、朝8時から子ども向けのコンサートがあってもいいじゃないですか。クリスマスの時に見た、ニューヨークのレディオ・シティ・ミュージック・ホールのミュージカルなんて、朝8時から何公演もやっているんですよ。

K 一日で8公演くらいありましたかね。

U それを考えるとザ・シンフォニーホールにも、いろいろな時間帯の公演があってもいいだろう、となりますよね。また、「どんな公演を行おうか」という発想から、「ホールをどう使っていただこうか」という発想に切り替えれば、深夜から翌朝までは「録音スタジオに使いませんか」とか、「レッスンにどうですか」という新しい考え方も出てくるわけです。あらゆる角度からホールを見つめ直すことが大切だと思っています。

H 確かに、いま演奏家を目指している若い人たちは、「どうやったらこういうホールを使うことができるだろうか」って、頭を悩ませているんです。それが、ザ・シンフォニーホールを使ってレッスンが出来るとなったらとても素晴らしいことですし、幸せなことですね。

U ホールはクローズしていたら何も生みませんが、開場している限り、価値を生み出していくと思うんです。

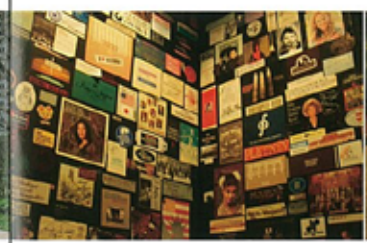
音楽と映像のコンチェルト。

U さらには、映像と光を音楽と融合させていくコンサートも考えています。

> “クラシック音楽のすばらしさを
> ひとりでも多くの人へ届けたい。
> そのためにホールができることを考える。”

ザ・シンフォニーホール開館30周年記念ガラ・コンサートより(2012年10月14日)

2階ホワイエから見える公園の緑もホールの美しさを引き立てている



著名な演奏家やトップ・オーケストラが演奏した証である、バックヤードのステッカーの数々

K 例えばR・シュトラウスが作曲した「アルペン・シンフォニー」は、夜明けから夕暮れまでの「アルプスの一日」を表している曲なんですが、音楽と一緒にその情景を映像で流したら、初めて聴く人たちも曲に入り込むことができると思うんです。

U そこに3Dが入ったらさらに面白いですよね。雨がバーッと降ってくるとか。いま、眼鏡をかけなくていい3Dもありますよね？

K プロジェクション・マッピングですね。あの装置を導入することで、例えば「銀河鉄道999」だったら、天井を汽車が走る演出が出来るんです。そういう演出なら、息子さんたちも思い出になると思います。

H しかも生演奏でするんや！

K プロジェクション・マッピングはいま、サンフランシスコ・シンフォニーとシンフォニーのすべらハウスが取り入れ始めていて、人気のコンサートになっているんです。

U 日本ではぜひ、ここならやりましょう！

子供たちの耳と心と夢を育てる。

K 堀江さんはクラシックファンとして、ホールでこんなことがあったらいいなというのはありますか？

H そうですね、子どもたちが出演する演奏会ですね。成長過程の音楽をみんなで聴ける場面が欲しいです。小さいころから音楽を頑張っている子どもたちは大勢いて、彼らが演奏する姿は見ていて心が和むんです。本人にとってみれば、こんな大きなホールで大勢の人の前で演奏して拍手をもらえれば、練習でつらかった思いもスッと晴れて、また明日から頑張ろうという気持ちにもなれる。それに、親たちも必死になるでしょう？（笑）

K それは重要なポイントだと思います。音楽家にとっていちばん大事なのは耳じゃないですか。楽器から出てくる音だけでなく、響いている音、倍音を聴き分ける耳が必要なんです。でもこれは、小さい部屋で

練習していても絶対に身につかない能力なんですよ。だから、そういう機会を子どもたちに作っていくのは、この上ない情操教育だと思います。

H なるほど。僕はそこまで想像できなかったですけど、野球でも何でも試合があると、みんなが見ているから張り切るし、つらい練習が報われますよね。そういう意味で大きなホールで演奏出来れば報われるかなと思ったけれど、考えてみたらそうですね。「頑張ってくる音を聴き分ける」というすごく勉強になる時間なんですね。

U お客様に向けては、解説を聞きながら音楽を聴くコンサートもあったらいいですね。解説入りの歌舞伎を観るのと同じように。

K 堀江さんがラジオ（ABCラジオ）堀江政生のザ・シンフォニーホール・アワー」にでられているような、音楽にナレーションを付けるコンサートがあれば、より分かりやすいですね。

H そうですね。関西ですよね。伝統的なコンサートもやっていかなくてはいけませんから。ただ、僕はクラシックばかり聴いてきたので、オーケストラが入ってきて、指揮者が出てきて、演奏して、拍手をもらって帰るという状況が当たり前になっているのですが、「なぜ、司会者がいないの？」と言われている方もずいぶんいらっしゃるんですよ。最近は指揮者が解説をするコンサートも増えてはいますが、せっかく僕もアナウンサーの仕事をさせてもらっているので、もっとそういうものをやりたいなという気持ちはありますよね。

T 堀江さんみたいな方が曲の説明をしてくだされたら、「あ、そうなんだ」と、僕ら初心者は納得出来ますよ。

U ザ・シンフォニーホールが学校になりそうだね。

H 素晴らしい学校ですよ！

ホール全体でアーティストを応援。

U ところで、喜多さんは演奏家としてさまざまなホールで演奏していますが、ホールによって演奏しやすい、しにくいはありますか？

K あります。まず大きいのが、裏から入ってきて舞台に出るまでの空気感ですね。それはスタッフのサポート意識などもあると思います。スタッフがものすごく温かく迎えてくださったのは、NYのカーネギー・ホールでした。あそこで働いている人たちは若者を大事にしてくれて、楽屋口に歩入るときからガードマンが「そんなにスッと入っていいの？」って話しかけてくるんですよ。「今日君は、プロの第一歩をここで踏めるんだよ」って、そこで「あ、そうや」と意識が変わって、演奏も変わる。ホールのスタッフも演奏者に影響を与えるんだと感じることはありますね。

U ホールはハード面だけではなく、そこにいるスタッフのソフトな部分、会場が持っている雰囲気などが総合的に、演奏者に影響を与えているということなんですね。それはもちろん客席にも伝わる。カーネギー・ホールのように、ザ・シンフォニーホールでも、学生にそういう機会を与える役割は必要だと思うんですよ。

H そうですね。実は、長男はチェロを勉強しているのですが、ザ・シンフォニーホールでほう最で初めて演奏させてもらいました。当時の大阪シンフォニカー（現・大阪交響楽団）と共演させていただき、ソロで演奏したのですが、舞台裏で袖を触ったら、手が震えるくらいに、心臓の鼓動が激しかったんですよ。でも、舞台に上がって拍手をもらった瞬には、冷静になっていたんです。お客さんが「頑張れよ」という拍手をしてくださっていたからで、演奏を終えての第一声は「温かかった」でしたいまおに「大阪のお客さんは本当に応援してくれる。一所懸命聴いてくれて、自分と同じ思いになっているのが弾いていて良く分かる」と、言っています。大阪の人たちは頑張っている若い人たちを応援しようという気持ちもありますし、そういう人たちがザ・シンフォニーホールに集っているのを感じますね。

多くのアーティストが登壇することを憧れているザ・シンフォニーホールのステージ

「堀江政生のザ・シンフォニーホール・アワー」収録の様子。「クラシック音楽の魅力が伝わる番組を目指す」と堀江氏

ザ・シンフォニーホール建設当時の姿。30年前は並木道の木々も若々しく、ホール全体が見渡せていた

福島という素晴らしい街とともに。

U また、地域に愛されるホールでもありたいですね。福島というエリアは、素晴らしいレストランやおしゃれなバーがたくさんありますから、運動していければと思います。

T 梅田から一駅、あるいは歩いてこられるという立地条件は素晴らしいですしね。また、道頓堀に五座という五つの劇場があって、それを中心に飲食街が発展したように、劇を観るとか音楽を聴くという事と、食べるという事は密接だと思うんですよ。

H いい演奏会であればあるほど、終演後に真っ直ぐ家に帰るのは少し物足りない気持ちがありますもんね。

U だから、ザ・シンフォニーホールはこれからも地域の人と密着して愛されるホールでありたいと考えています。

T そして将来的には、我々がロンドンやニューヨークにミュージカルを観に行くように、世界各国から「クラシック音楽を大阪のザ・シンフォニーホールで聴こうよ」というくらいにしたいですね。そういう大きな夢と想いを持って、この事業を続けていこうと思います。

H そのためにも、私も「ザ・シンフォニーホール・アワー」をはじめラジオを使って、一緒にコラボレーションして盛り上げていけたらと思います。

K せっかくのラジオ番組ですから、上手にかからり、相乗効果を上げていけるようにしたいですね。

U そこは大事なポイントです。メディアミックスというのかな。ぜひ、よろしくお願いします。